

エネルギー起源二酸化炭素

エネルギー起源二酸化炭素 えねるぎーきげんにさんかたんそ

燃料の燃焼で発生・排出される二酸化炭素をエネルギー起源二酸化炭素と言う。日本では地球温暖化につながる温室効果ガス 6 種類：二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、代替フロン等 3 ガス）排出量のうち、大部分（約88%（2002年度））がこのエネルギー起源二酸化炭素（CO₂）である。人間活動に必要なエネルギーの約85%は石炭、石油、ガスなどの化石燃料から得ており、これから発生するエネルギー起源二酸化炭素は地球温暖化の大きな原因となっている。このため、化石燃料に頼らないエネルギーの確保などが大きな課題となっている。なお、工業プロセスの化学反応で発生・排出されるもの（セメントの生産によるものが約9割を占める）や、廃棄物の焼却で発生・排出されるものは非エネルギー起源二酸化炭素と言われ、温室効果ガス排出量の約6%（2002年度）を占めている。

<登録年月>

2006年11月
